

2007 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">現代日本語研究</p>	<p>対象学科・学年 文学部日文2回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">藤田 保幸</p>
<p>授業テーマ 現代日本語文法の基礎</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>一歩進んだ現代日本語文法の理解を目指し、文の基本構造から説き起こして、「ヴォイス」「テンス・アスペクト」「モダリティ」「複文」「連用と連体」といった事項にわたって、日本語文法の基礎を概説する。現代日本語の文法研究のためには、さまざまな基礎概念やテクニカルタームの理解が必要であるが、この時間は、もっぱら講義形式によって、現代日本語文法論の基礎知識の修得を目指して、基本的な事項を説明していく。テキストは簡潔なポイントの提示と資料を中心にまとめた私家版を用い、比較的早いペースで話していくことになるので、きちんとノートを取り、復習を心掛けることが肝要である。</p>		
<p>評価方法</p> <p>もっぱら、小テストの成績によって評価するが、随時用例収集等の課題を課して、提出を求める。また、出席も基礎点として重視する。</p>		
<p>テキスト</p> <p style="text-align: center;">『日本文法論序説』</p>	<p>著者 藤田保幸</p>	<p>出版社 私家版</p>
<p>参考書</p> <p style="text-align: center;">『日本語のシンタクスと意味Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』</p>	<p>著者 寺村秀夫</p>	<p>出版社 くろしお出版</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文法論の前提として——導入 2. 文の基本構造 3～4. 主語論——主語と主題 5～6. ヴォイス——受身と使役 7. テンス 8～9. アスペクト——金田一の四分類など 10. モダリティ——確言と概言、ノダ文など 11～12. 複文 13. とりたて詞 14. 連体と連用 15. まとめ；小テスト 		